

# 奄美の自然保護 応援しよう

奄美大島の豊かな自然に魅せられた府立豊中高校(高橋克夫校長、豊中市)の生物研究部の生徒たちが、同島の自然保護への取り組みを大阪からも応援していこうと、文化祭などの機会を通して呼びかけている。

きっかけは、春休みに生物研究部の3年生6人で同島を訪れた研修旅行。固有種の鳥「ルリカケス」や世界最大の豆「モタマー」を観察するなど生物多様性を体感。一方で同島の固有種であるアマミノクロウサギが、ハブの天敵として同島に放されたマングースや、

豊中高・生物研究部

## 文化祭などで呼びかけ



生物研究部の生徒たちが活動成果を発表した文化祭。アマミノクロウサギのぬいぐるみも登場して自然保護を訴えた

ペットが捨てられて野生化したネコやイヌに捕食され

ていることを知った。帰阪後、奄美の自然を今

年度のテーマとすることに決め、専門家や研究者の話も部員9人全員で聞いた。

そして、奄美の豊かな自然の魅力を伝え、その保護を大阪からも応援していきなさいと今年10、11日に開かれた同校の文化祭で、アマミノクロウサギの現状や、マングローブといった特徴的な植物の生態などについて発表した。

同部の中野碧部長(17)は「アマミノクロウサギを食べる悪者として、マングースやネコが殺処分されていますが、その原因を作ったのは人間の身勝手。自然保護の背景にある問題も含めてしっかり考えていきたい」と話していた。